

「ノーベル賞と読書の秋」(全校朝会より)



Q1 突然ですが、この写真の方を知っていますか？

超難問です。知っている人がいたら驚きです。

- ① 山中伸弥教授 (①～③の写真を見せる)
- ② 本庶佑教授
- ③ 吉野 彰(あきら)名誉フェロー

そうです。ノーベル賞を取った日本人です。では、どんな理由・功績で受賞されたかお話します。

- ① 人のあらゆる臓器(心臓や神経)になり得る iPS 細胞を作られました。
- ② ガンをなくす、オプジーボという薬の開発に役立つ研究をなさいました。
- ③ スマホやパソコンの中に取り付けられている、リチウムイオン電池を開発されました。

Q2 この3人の方に共通することは何でしょう？

そう、ノーベル賞です。ノーベル賞を貰った人の数で、日本は世界で7番目に多い国だという事です。

その事を調べていたら驚くべき事を知りました。これまでの受賞者のうちの少なくとも 20%、約5人に1人がユダヤ人という民族なのだそうです。ユダヤ人は世界の人口のたった 0.2%ぐらいの人口に過ぎないにも関わらず…。なぜそんなにユダヤ民族の人達は優秀なの？いろいろ調べてみましたが、最近、やっと、その秘密が分かりました。その秘密は、家庭での過ごし方にありました。ユダヤの人の家庭では、子どもを膝の上にちょこんと乗せて、あることをするのだそうです。それは、本の読み聞かせ。1P読み終わり、ページをめくるごとに、甘い砂糖をぺろりと子どもに舐めさせるのだそうです。1ページめくるごとにぺろり。またぺろりと…。何て幸せな光景でしょうね。そうして、子どもたちは、沢山の知識と心の栄養を身に付け、育っていくのだそうです。(後略)



始めませんか？親子(家族)読書を…！

ビリギャル、小林さんに学ぶ

10月26～27日の2日間、福岡で行われた九州地区PTAの研修会に行ってきました。講演も拝聴する機会に恵まれ「学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶応大学に現役合格した話」の主人公＝ビリギャル、小林さんの話を直接伺うことができました。折角聞きたい話、皆様にもお裾分けを。

小林さんの今があるのは

- ◎やりたいことを全力で応援してくれる
 - ◎子どもの声を心から聴いてくれる
 - ◎そのままの自分を丸ごと受け止めてくれる
- そんな母がいつも側にいて、その姿に「自分は認められている」という自己肯定感を抱くことができたのだそうです。

また、小林さんは、数々の経験から

- ◎ワクワクすることを見つけられることは素晴らしいという価値観は大切
- ◎小さなできるの積み重ねが大きなできるに繋がる
- ◎子どもの意思と自己決定を大切にし、自己決定の場を創ってやる
- ◎Teaching(教える)より Coaching(引き出す)
- ◎何事もやってみないと分からない、その間の努力の価値とビジョンを描く力の大事さ等を、天真爛漫に語っていただきました。

そして結びは、大人が「こんなに人生って面白いんだという姿を、子どもに魅せてやることって何よりも大切な！」という話。本当に奥深い内容でした(*^o^*)



【子どもの広場】

「秋の風景」(4年生)

☆やきいもや やきザンマには くりごはん
☆どんぐりを ひろってあつめて 何つくろ
☆山見ると 赤と青とで そまりそう

「修学旅行」(6年生)

☆長崎で 平和の幸せ 感じたよ
☆団結だ フィールドワークの 町まわり
☆長崎は 平和の世の中 願ってる
☆中華街 きつねの面を 買ったおれ

日頃伝えていない「ありがとうの気持ち」(5年生)の掲示が、パソコン室の前に。学校にいられたときはぜひご覧になって下さい。

